

神経筋難寝たきり病患者の胃瘻周囲の皮膚トラブルに 対する粉状皮膚保護剤バリケア®パウダーの効果

金澤優子^{#1} 岑地典子^{#1} 芦和かおり^{#1} 細川峻吾^{#1} 佐藤由美^{#1}

^{#1} 独立行政法人 国立病院機構 徳島病院 看護部 776-8585 徳島県 吉野川市鴨島町敷地 1354 番地

受付 2019.2.28 受理 2019.3.8

要旨

胃瘻周囲の皮膚トラブルに対し親水性ポリマーを粉末状にしたバリケアパウダーの効果を検討した。対象は、A病棟で経腸栄養を行っており胃瘻周囲の皮膚トラブルがある患者2名。その結果、2名ともバリケアパウダーの使用によって胃瘻周囲の発赤が減少した。胃瘻からの漏れが多い患者の瘻孔部位にバリケアパウダーを散布することで、漏れる量の減少につながった。バリケアパウダーは皮膚保護剤として褥瘡に使用されてきたが、今回の研究により胃瘻周囲のトラブルにも有用であることが明らかになった。

キーワード：粉状皮膚保護剤、胃瘻、発赤、神経・筋難病患者

はじめに

胃瘻造設に伴う合併症の1つとして胃瘻周囲の皮膚トラブルがあり、患者の多くは栄養剤や胃液の漏れがみられる。胃瘻からの漏れ対策としてトレンディガーゼ（以下、ガーゼと略す）やティッシュペーパー（以下、ティッシュと略す）を使用している。胃瘻からの漏れが多い患者は頻回にガーゼやティッシュの交換を行っている。汚染されたガーゼやティッシュが付着したままでは皮膚の状態を悪化させるだけでなく、患者に苦痛を与える。尾見¹⁾は「漏れによって皮膚が湿潤するため表皮のバリア機能が低下し、真菌などの感染を起こしやすくなる」と述べている。胃瘻からの漏れを予防することが、皮膚トラブルの改善につながると考え本研究に取り組んだ。胃瘻からの漏れが多い患者の皮膚トラブルに対するケア方法として、ストーマケアで使用する皮膚保護剤に着目した。先行研究では、乳児臀部潰瘍や接触型の仙骨部褥瘡に粉状皮膚保護剤（バリケア®パウダー、以下バリケアパウダーと略す）を使用し有

用であった症例が報告されていることから、皮膚トラブルのある患者に使用可能であるという見解を得た。バリケアパウダーは親水性ポリマーを粉末にしたもので、水分を吸収するとゲル状になり皮膚を保護する作用と胃瘻から漏れた胃液の刺激を軽減するpH緩衝作用がある。そこで今回、胃瘻周囲の皮膚トラブルに対しバリケアパウダーを活用しケアを実施したので報告する。

対象と方法

対象はA病棟で経腸栄養を行っており胃瘻周囲の皮膚トラブルがある患者2名。我々は神経・筋難病患者の胃瘻周囲の皮膚トラブルに対し、バリケアパウダーを使用したケアを行った。対象患者にパッチテストを行う。バリケアパウダーを使用する前の対象患者の胃瘻周囲の皮膚状態の記録を取り、胃瘻周囲のケアを行う。バリケアパウダーを使用する前後の胃瘻周囲の皮膚状態をマンセル表色系5Rを参考にし、発赤の程度を比較する。また、ケア開始8週後以降に漏れる量の重さを量る。

Correspondence to: 金澤 優子, 独立行政法人 国立病院機構 徳島病院 看護部 776-8585 徳島県吉野川市鴨島町敷地 1354 番地 Phone: +81-88-324-2161 Fax: +81-88-324-8661

倫理的配慮

B 病院の倫理審査委員会において承認を得た。対象者に研究への自由参加について参加・拒否することへの不利益を生じないこと、いつでも撤回できることを説明する。また研究で得られたデータについては個人が特定されないよう配慮すること、学会発表等の研究以外に使用しないことについて説明し承諾を得た。

結 果

今回の研究対象者 A 氏は胃瘻造設後、約 8 年経過している。胃瘻からの漏れは多い時で 1 回に 250g 程度である。検査所見では総コレステロール値は 180mg/dl と基準値範囲内であるが、アルブミン値は 3.4g/dl と低値である。B 氏は胃瘻造設後、約 7 年経過している。胃瘻からの漏れは 1 回に 10g 程度、総コレステロール値は 168mg/dl で基準値範囲内である。B 氏もアルブミン値は 3.4g/dl と低値である。ケア開始前に実施したパッチテストでは、A 氏 B 氏ともにバリケアパウダーによるアレルギー反応はみられなかった。対象者の概要表 1 に示した。A 氏の結果は次のとおりである。発赤の大きさはケア開始前と開始から 8 週後で比較すると、縦方向へ 1cm 拡大、横方向は 1cm 減少した。びらんはケア開始前ではみられなかったが、開始後 6 週間で発生した。(表 2) ケア開始前および開始後 2 週間毎に撮影した写真を図 2 に示す。胃瘻周囲の写真画像の比較で、A 氏はケア開始前と比較すると 8 週後では 6 時と 7 時の方向にびらんが発生したが、発赤は軽減した。

B 氏の結果は次のとおりである。発赤の大きさはケア開始前と開始から 8 週後で比較すると、縦方向へ 2cm 拡大し横方向は 1.4cm 減少した。びらんはケア開始前ではみられなかったが、開始後 2 週間で発生し 6 週間で消失した。(表 3) ケア開始前および開始後 2 週間毎に撮影した写真を図 3 に示す。胃瘻周囲の写真画像の比較で、B 氏は全体的に発赤が軽減し、ケア開始前に発生していたびらは消失した。

考 察

今回の研究では、胃瘻周囲の皮膚トラブルにバリケアパウダーを使用することにより、発赤等のトラブルの軽減とバリケアパウダーの有用性を期待した。

A 氏、B 氏ともに発赤範囲に大きな変化はみられなかったが、全体的な色調は淡色に変化したことが分かる。A 氏は胃瘻からの漏れが多く衣服を汚染することもあった。胃瘻周囲の皮膚と瘻孔部位にバリケアパウダーを散布する方法に変更したことで、胃から漏れる量の減少につながった。栄養剤注入時以外は 20～30 度ベッドアップしており、バリケアパウダーが吸収できなかった漏れが下方へ流れ、胃瘻下部にびらんが発生したと推察される。B 氏の胃瘻からの漏れの量は少量だったため、ゲル化したバリケアパウダーが発赤部位全体を保護し皮膚トラブル改善につながった。ゲルは無理に拭き取らないようケアを統一し、胃瘻周囲の皮膚の刺激を最小限にすることが重要である。

A 氏は胃瘻造設から約 8 年、B 氏は約 7 年経過している。瘻孔の径は年月の経過に伴って自然に拡大し、その結果漏れを生じる。A 氏、B 氏ともに以前より胃瘻からの漏れがあり、長期にわたり胃瘻周囲の皮膚は栄養剤や胃液の刺激を受けている。A 氏、B 氏は高齢であり検査所見のアルブミン値は低値を示していることなどから、胃瘻周囲の皮膚は脆弱化している。高齢者は加齢により細胞内の水分保持能力や皮脂の分泌機能が衰えるため、皮膚の生体防御機能が低下する。そのため、わずかな刺激でも皮膚が傷つき感染を起こしやすくなる。A 氏、B 氏ともに以前から胃瘻周囲全体に発赤が発生していたが、バリケアパウダーを使用することによって発赤が軽減したという結果が得られた。しかし皮膚保護剤は健康保険の適用とならないため、経済的理由で長期使用を中断せざるをえない場合もあると考えられる。今後、胃瘻周囲の皮膚トラブルケアにバリケアパウダーを使用する場合、患者へ十分な説明をし理解を得ることが課題といえる。

文 献

1) 尾見亜希子：漏れにより皮膚炎をきたした事例,臨床看護,29(5),593,2003.

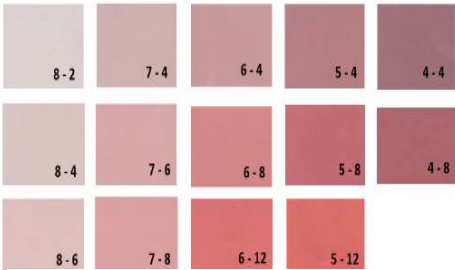


図 1 マンセル表色系 5R を参考にした
発赤比較チェックカード

表1 対象者の概要												
濃厚流動食の種類	A氏						B氏					
	OZHi						PGソフトA					
栄養剤の注入時間	朝	10時	昼	15時	夕	20時	朝	10時	昼	15時	夕	20時
濃厚流動食(ml)	300	0	300	0	300	0	400	0	400	0	530	0
白湯(ml)	100	200	100	200	100	200	150	200	150	0	50	450
日常の漏れの程度	胃瘻からの漏れが多くガーゼとフラットタイプのシートを使用している。多い時は1回に 250g 程度漏れることがある。						胃瘻部にあてているガーゼが2枚湿る程度。1回に 約10g 。					
注入時の体位	仰臥位、セミファラー位						仰臥位、セミファラー位					
胃瘻造設日	X年3月						X年4月					
総コレステロール値 (基準値 150～219mg/dl)	180mg/dl (Y年11月)						168mg/dl (Y年12月)					
アルブミン値 (基準値 4.1～5.1g/dl)	3.4g/dl (Y年11月)						3.0g/dl (Y年12月)					
BMI	24.8						20.7					
アレルギーの有無	無						無					
軟膏の種類	亜鉛華単軟膏						マイザー、フジシロオ混合軟膏					

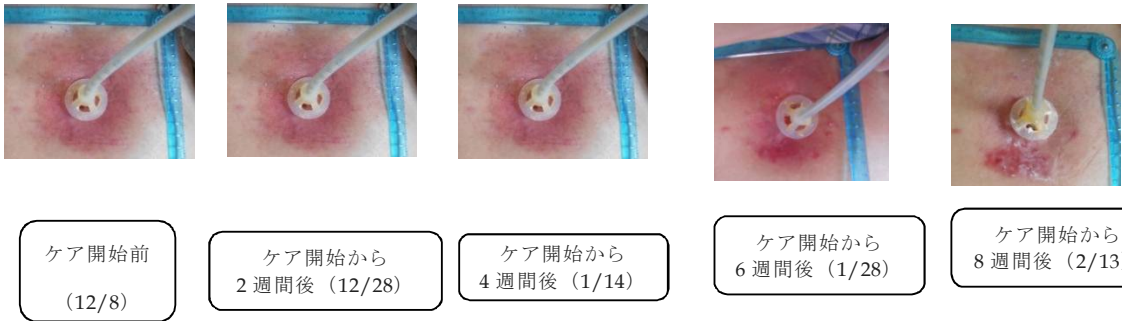


図 2 発赤、びらん部位の写真画像（A 氏）

表2 発赤の大きさ、びらんの有無(A氏)

	ケア開始前 (12/8)	ケア開始から 2週間後 (12/28)	ケア開始から 4週間後 (1/14)	ケア開始から 6週間後 (1/28)	ケア開始から 8週間後 (2/13)
発赤の大きさ (縦cm×横cm)	10.0×13.0	12.0×13.0	11.0×12.5	10.0×10.0	11.0×12.0
びらんの有無	無	無	無	有	有

表3 発赤の大きさ、びらんの有無(B氏)

	ケア開始前 (12/8)	ケア開始から 2週間後 (12/28)	ケア開始から 4週間後 (1/14)	ケア開始から 6週間後 (1/28)	ケア開始から 8週間後 (2/13)
発赤の大きさ (縦cm×横cm)	5.0×7.4	12.0×13.0	11.0×12.5	10.0×10.0	11.0×12.0
びらんの有無	無	有	有	無	無



図3 発赤、びらん部位の写真画像 (B氏)